

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600020		
法人名	医療法人社団 高仁会		
事業所名	みんなの家なかんじよ		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町967番地		
自己評価作成日	平成26年 9月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なかんじよの理念にもあるように「その人らしさ」を大切に、その人の出来る事に着目して一人ひとりが輝けるよう職員は陰のサポート役として支援している。医療機関とも連携をとり異常の早期発見に努めている。あわせて、今年度も引き続き、群馬県で実施の認知症基礎研修や実践者研修へスタッフを参加させている。昨年より取組始めた職員の体験や経験から「～だろう」と意味づけるのではなく、「スタッフが自分なりの解釈を入れない利用者さんの見方」を引き続きケアの場面や利用者カンファレンスで伝える様になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その人の思いを大切にその人らしく生きる姿を支える、その人のできることに着目し活躍の場を提供する、医療機関との連携を図る、自然にふれあい地域社会の中での交流を大切にすることを掲げ、実践に努めている。食事づくりにおいては、入居者の希望を聞き食材の買出しから、下ごしらえ・後片付け等入居者のできることを引き出し、楽しみながら参加できるよう支援している。入浴は、週2・3回入居者が入りたい時間に入れるよう臨機応変に対応すると共に、自分の好みのシャンプーの使用や気の合った者同士の入浴など、入浴を楽しめるよう支援している。また、入居者の意向をできるだけ反映した外出の機会を提供し、近所の散歩、道の駅や地域にある足湯コーナーの利用など、地域との関わりを大切にしながら日常的な外出支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会での交流を理念にかかげ、買い物など近くの商店街を活用している。	4つの項目を理念に掲げ、職員は理念カードを携帯し、常に確認できるようにしている。職員個人の経験や体験に頼るのではなく、できるだけありのままを記録し、管理者・各ユニットリーダーを中心に話し合い共有して、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に外出し、挨拶や会話を心がけている。	散歩、公共施設の利用、商店での食材の買出しなど、日頃町の人々との触れ合いの場を持っている。また、事業所の納涼祭への地元の方の招待、近隣の保育園児の訪問、フラダンスなどのボランティアの受入れなど、積極的に交流も行い、入居者が地域とつながりながら暮らせるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室などで認知症の対応について話題提供する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度は必ず実施し、意見を取り込んでいる。	奇数月に区長、民生委員、老人クラブ会長、家族、町の担当者の出席のもとに開催し、入居者の生活状況などを報告し、出席者から質疑や意見を聞いている。	家族の方がより多く出席できるように工夫、検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	変更届提出や他の書類提出などで担当係を訪問した際、情報交換を行っている。	町のメーリングリストを利用した情報活用、町の担当者との情報交換や困ったときの相談、地域包括支援センターの研修会参加などを行い、日頃から連携を密にし、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	過去に利用者一人で外出してしまったケースがあり、安全のため施錠する形をとっている。状況によっては、入り口の鍵を開けて利用者として作業をする。	身体拘束をしないケアの理解を図るため、社内研修や県主催の研修に参加すると共に、管理者は日頃のケアを通して、言葉による抑制を含め、具体的な事例をあげて説明し、理解と共有のもと身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠についても、場面場面を考えて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修会へ参加したり、内出血が見られたときは、原因を考え再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度の理解に欠けている。また、群馬県で実施の権利擁護の研修へも参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族との信頼見解が築けている。生活状況を伝えるように面会時や月に1回写真を送るなどを中心に、関わりを多く持つようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の介護教室を定期的で開催し、家族からの要望を聞くなど交流の場を設けている。	家族の面会時や月1回料金請求時に写真や手紙と一緒に送り入居者の様子を伝えると共に、その際に家族から意見や要望を聞くようにしている。個別のケアに関する要望は聞かれるが、運営に関する意見は出ていない状況である。	運営に関する意見が出やすい機会づくりの検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の機会を設け、一人一人の意見が聞ける体制を作っている。今年度は法人の職場満足度調査を実施し、現場へ調査結果の開示を行った。	ユニット毎のミーティング、各ユニットのリーダー及び管理者による月1回のリーダー会議を行い、職員から日常業務についての意見や要望を聞いている。また、管理者は必要に応じ職員との個人面談の機会を設け、職員から意見や要望を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアで上手くいった点を把握・理解し、向上心が持てるように「褒めること」を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるように、研修情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に管理者が事業所の状況を報告し、状況を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	気づいた点は申し送りノートを活用し、すぐに対応出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話をする機会を積極定期に活用し、本人・家族の意向を理解するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族へ通院リハビリや専門外来などを提案する機会を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ全員を介護者の立場だけに位置づけず、一緒に生活する視点を重要視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告・相談をする事で、信頼関係が築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と1対1で本人の家へ出かけたり、なじみの床屋などを利用している。	馴染みの店、床屋や美容室に継続して行けるようにしたり、親戚の方が面会に訪れる際には、入居者の様子を説明したりするなど、本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良くない状況でも、また孤立しないように、利用者の配置を調整しできるだけ問題に発展しないようにしている。また、2階と3階の利用者同士の交流も日々行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の家族との定期的な連絡は無いが、相談を受ける窓口があることは伝える様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に確認をしてできるだけ理解するようにしている。難しい場合は家族へ様子を聞くようにしている。	本人や家族から生活歴を聞きアセスメントし、本人の基本情報を把握すると共に、毎日の会話のなかから、おまんじゅうを買いに行きたいなどの具体的な要望やしぐさや表情などからその時々思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中で新しい発見があったときには、カンファレンスで報告し職員で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のその日の状態に合わせて、施設内外の生活を提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のカンファレンスを設け、9名の生活状況の変化をモニタリングしている。	本人・家族の意向を取り入れ、基本的には、1年間の介護プランを立て、毎月カンファレンスを行い、個々の入居者の生活の状況等について意見交換し、3ヶ月に1回ケアプランに沿ったモニタリングを行っている。変化が生じ、必要な時にはその都度プランを見直している。	日常の経過記録についても、介護プランを意識した記録の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者のケース記録を細かく記入し、必要に応じて送りノートへも記入して、全職員で状況把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援内容は場面場面にあわせて変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の温泉や足湯を利用したり、お祭りなど町の事業へも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ生活状況を受診時に伝えるほか、必要に応じて必要な診療を提供できるようにしている。	本人・家族の希望を大切に、ほとんどの方が母体の医療機関の協力医をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療、職員の介助による通院、事業所の看護師と週1回訪問の看護師による日常の健康管理と医師との連携により、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設の看護師へ状況相談は24時間できる体制となっている。またかかりつけ医療機関の看護師や併設事業所の看護師へも相談する体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のお見舞いへ職員が出かけて、本人へ面会することと合わせ、病院の看護師から入院中の状況を聞いたり、施設の生活状況を伝える様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いの場を設け、お互いに共通の認識で話をするように努めている。	入居時に重度化や終末期のあり方について家族から意向確認し、状況変化に応じ、その都度報告し、家族の意向を確認しながら支援している。看取りを含め家族の意向を尊重するなかで、医療連携を図りながら入居者の症状に応じて必要なケアサービスが提供できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護職員の看護面についての知識が乏しく、適宜カンファレンスで勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水や缶詰などの備蓄をしている。火災における避難訓練は、毎年1回は消防職員の立ち会いの下で実施している。地域の協力体制は引き続き努力する必要がある。	年2回、うち1回夜間想定を取り入れて、消防署立会いの下で、初期消火、通報、避難誘導の一連の火災訓練を実施している。飲料水、缶詰の備蓄を行っている。	2・3階の建物利用を踏まえた実践的な訓練と地域の協力体制の構築に向けた取組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉は使わないように努力しているが、職員全員が適切に言葉を使っている状況ではない。また常に敬語を使うことはできていない。	敬語を使うように指導し、呼び方は名字又は名前にさん付けで呼んでいる。排泄時の声かけ、排泄の失敗のときなどの対応は、さりげなく着替えの言葉に置き換えるなど、本人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の病状や状態を観察しながら、出かけたところや食べたい物を聞いて、本人が選択できるような場面を設定し、声をかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まってないので、その日に何をしたいかを聞いて予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着るのかなどは本人にできるけ決めてもらい、洋服を買いに出かけた際は本人が選ぶことができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを理解し、毎食みんなで作るようにしている。	予め献立を作らず、入居者の希望を聞き、食材の買出し、下ごしらえ、調理、配膳・後片付け等、入居者のできる範囲で参加していただき、一緒に食事を楽しんでいる。また、時々中華料理やうどんなどを食べに出かけたり、お弁当を買ってきたり、おやつにホットケーキを一緒につくるなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士に相談しながら、メニューなどを決めるようにしたり、週1回は管理栄養士が施設へ来て、食事場面を確認したり、一緒に作業している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には声掛けで促し、できない方には職員が介助して行っている。義歯の口臭対策として入れ歯洗浄剤やマウスウォッシュを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間間で排泄状況をチェックし声掛けで促し、布パンツとりハビリパンツを効果的に利用する様に支援している。	排泄チェック表により本人の状態を確認し、時間による声かけ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士からのアドバイスを踏まえて、申し送りの時間を中心に職員で対応が統一できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の入りたい時間にできるだけ添えるようにしている。	入浴は週2・3回、入居者が入りたい時間に入れるよう臨機応変に対応し、ゆっくり入浴できるようにしている。自分の好みのシャンプーの使用、入浴剤の活用、気の合った者同士での入浴など、入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒否する方には、声かけのタイミングを考えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に繋がらないように、日中の活動量が多くなるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の状況を把握するまでには至っていないが、ケース記録へは服薬内容説明書を綴り、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯・掃除など出来る事をできる場面で一緒に行い、役割がもてるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行の季節を除いて、外出などの場所は制限しないようにしている。	入居者の意向をできるだけ反映し、外出の機会を提供し、近所の散歩、道の駅や地域にある足湯コーナーの利用、買物、四季折々の花見、りんごや紅葉狩りなど、積極的な外出支援をしている。また、外泊や外食など家族の協力をいただきながら支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設の決まった場所で預かっているが、本人からの求めがあったときは直ぐに使えるようになっている。またご家族との話で本人が持つこととなれば、自分の部屋で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい希望があれば電話をかけてもらう。手紙が届いたら本人へ届けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒い時期はこたつを作ったり家具の配置を換えたりと、動線も考えながら空間を整備している。	居間兼食堂には、テレビを見ながら寛げるようソファが配置され、また、冬期には炬燵も設置している。キッチンには、使いやすい食器棚が配置され、入居者が気軽に使用するなど、家庭的な雰囲気のもと、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけではなく、自室でお茶を飲んだりできるようにしている。また、利用者同士で部屋で話している場面も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものをできるだけ持ってきてもらうなどしている。また好んで使用していたシャンプーなども職員と一緒に買いに行き、引き続き使えるよう支援している。	居室は、希望により畳を敷くなどの対応をしている。居室には、テレビや使い慣れたタンスなどが持ち込まれ、温度や湿度管理が行き届き、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動などの機能維持のため、車椅子などの利用は場面を見て提供している。できない本よりも、出来る事をしてもらい、生活の自信を保っていけるようにしている。		